

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

15. 産前、産後の疾患

文献

Ushiroyama T, Sakuma K, Ueki M. Efficacy of the Kampo medicine Xiong-gui-tiao-xue-yin (Kyuki-chouketsu-in) , a traditional herbal medicine, in the treatment of maternity blues syndrome in the postpartum period. *The American Journal of Chinese Medicine* 2005; 33: 117-26. CENTRAL ID: CN-00515344, Pubmed ID: 15844839

1. 目的

キュウ帰調血飲のマタニティーブルーに対する有効性を確認する

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT- envelope)

3. セッティング

大阪医科大学病院と関連診療所

4. 参加者

妊娠中毒症、糖尿病、早期破水などの問題のない単胎正常分娩後の褥婦 268 名を対象とした。

5. 介入

Arm 1: カネボウキュウ帰調血飲 6.0g 分 3 投与 134 名

Arm 2: 投薬なしのコントロール群 134 名

6. 主なアウトカム評価項目

アンケート調査による気分の浮き沈み度、5 分以上泣く、苛立ちの 4 項目の有無による評価

エディンバラ産後鬱スケールによる鬱症状の有無による評価

自己判定式マタニティーブルースケールによるマタニティーブルーの有無による評価

7. 主な結果

産後 3 週間以内では、中等度以上の鬱症状、5 分以上の泣き行動、苛立ち、マタニティーブルーの 4 項目においてキュウ帰調血飲内服群において有意に発生頻度が低下。3 週以降 6 週では、両群に有意差は無かった。マタニティーブルーは特に産後 3 日以内の発生頻度がキュウ帰調血飲内服群で低下していた。

8. 結論

キュウ帰調血飲は産後の気分安定化に役立つ。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

両群ともに副作用は認めなかった。

11. Abstractor のコメント

本論文では、キュウ帰調血飲が古典の記述通りに産後のマタニティーブルーに対して、一定の効果をもたらすことを客観的に証明した文献として意味がある。マタニティーブルーは、産後 3 週以内に症状がほぼ消失するということで、治療の現場では経過観察とされる現状があり、産後のケアの重要性を説く意味において本論文の着眼点は意味深いと思われる。さらなる研究成果が期待される。

12. Abstractor and date

中田英之 2008.4.1, 2010.6.1